



### 「喜太一」

極晩抽性の青首総太り品種で、萎黄病に強く、規格品収量が多い。ひげ根が多いので、洗浄、出荷調整が容易。す入りは遅く、赤芯症、空洞症、内部褐変は少ない。

#### (2) 夏まき栽培

梅雨期から夏にかけて栽培を行うため、多湿、高温条件に強い品種を選択する必要がある。

### 「夏つかさ」

耐暑性があり萎黄病、ウイルス病、生理障害に強い。尻の肉付きがよい青首総太り品種。地上部は緑葉で立性、端数が少ないため過繁茂にならず作りやすい。

### 「夏天下」

首が淡緑色の青首総太り品種。萎黄病、ウイルス病に耐病性を持っている。

葉は濃緑色の中葉、中長葉で立性、やや草勢は強い。高温時の生理障害の発生は少ない。

#### (3) 秋まき栽培

収穫期の低温による被害が発生しやすいので、耐寒性に優れた晩抽性の品種を選択する。

### 「秋日和」

尻のつまりが早い総太タイプ。す入りが遅く、根形の揃いがよい。小葉だが、太りがよく、葉付きダイコンにも最適。太りが早いので、施肥量は控えめにする。

## 2 播種準備

深耕、砕土を十分行って、深く、膨軟な畑を準備することが重要である。また、苦土欠乏やホウ素欠乏症が出やすいので、耕起にあたっては苦土石灰を10a当たり100Kg、ホウ砂かホウ酸を1Kg程度施用する。

## 3 施肥

	施肥量			備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	
元肥	10	35	10	
追肥	4	0	4	
全量	14	35	14	

## 4 播種

真空播種機を利用して1穴2粒まきとする。

春まき栽培では、透明マルチ、バタがけ資材を利用する。

### (1) 栽植様式

#### ①春まき栽培

畦幅100cm 条間40cm 株間30cm。  
2条植え

#### ②夏・秋まき栽培

畦幅180cm 条間40cm 株間30cm。

#### 4条植

## 5 栽培管理

### (1) 間引き

本葉6～7枚時に、生育をあわせるため草勢の強すぎるものや弱いものや害虫被害を受けたものなどを間引く。

### (2) 追肥、土寄せ（マルチ栽培を除く）

追肥は2回分施とし、第1回目は本葉2～3枚期、第2回目は本葉6～7枚期に間引きを行った後土寄せと同時に行う。

## 6 収穫

適期収穫とし、生育日数を目安に行う。

①春まき栽培 生育日数60日

②夏まき栽培 生育日数55～60日

③秋まき栽培 生育日数60～70日